

高校公民プリント（過去問類似）
青年期と現代社会 No.10

名前

得点

/11

問1 子どもと大人の二つの集団の境目に位置し、どちらの集団にも完全に所属しきれないために不安定な精神状態に置かれている青年期の人々を「マージナル・マン（境界人）」と名付け、その心理的特徴を分析したドイツ出身の心理学者は誰か。 (2025年

全国公立入試 類似)

1. シュブランガー 2. レヴィン 3. ルソー 4. エリクソン

問2 人間の情念について、怒りそのものはそれ自体で善悪を決定できるものではなく、理性的「分別」の有無によって評価されるべきであり、時には社会の不正をただす契機となるような適切な怒りも必要であるとして、感情と理性の調和による中庸の徳を説いた古代ギリシアの哲学者は誰か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. エンペドクレス 2. アナクサゴラス 3. ヘラクレイトス 4. アリストテレス

問3 近年の日本における家族構成の変化において、高齢化や未婚化、単独世帯の増加などに伴い、総世帯数に占める割合が一貫して減少傾向にある、祖父母・夫婦・子どもなどが一つ屋根の下で共に暮らす世帯の区分を何というか。 (2010年 全国公立入試 類似)

1. 核家族世帯 2. 三世帯同居世帯 3. 高齢単身世帯 4. 高齢夫婦世帯

問4 著書において、人間が作り出した化学物質や農薬の散布が、長年にわたり均衡を保ってきた自然の生態系を破壊することに強い警鐘を鳴らした、アメリカの海洋生物学者は誰か。 (2026年 全国公立入試 類似)

1. レイチェル・カーソン 2. アルド・レオポルド 3. ワンガリ・マータイ 4. シーア・コルボーン

問5 青年期において、同時に満たすことのできない複数の欲求や目標の間で板挟みになり、選択や決定ができずに精神的な緊張や不安が生じる心理的状态を、心理学の用語で何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 葛藤 2. 抑圧 3. 挫折 4. 昇華

問6 従来の絵画や彫刻が追求してきた視覚的な調和や美しさがなくとも、既製品をそのまま展示するなどの手法を通じて鑑賞者の思考を揺さぶり、心を動かすことができるという現代アートの先駆的な試みを行った、代表作『泉』で知られるフランス出身の芸術家は誰か。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. マグリット 2. シャガール 3. デュシャン 4. ウォーホル

問7 1960年代の欧米における若者文化の代表例であり、既成の物質文明や社会的規範を否定し、自然への回帰や平和、人間性の回復を訴えて、共同生活などを営んだ人々やその運動を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. ビートニク 2. モッズ 3. パンクス 4. ヒッピー

問8 現代社会において、支配的な価値観や体制に対して異議を唱え、新たな価値観や生活様式を提示する文化のあり方を何というか。若者世代を中心に生み出され、既存の秩序を批判し、時に社会変革を促す原動力となるものを指す。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 若者文化 2. 大衆文化 3. 高級文化 4. 対抗文化

問9 青年期において、一人前の社会人としての責任や義務を果たすことが一時的に猶予されている期間を、エリクソンは何と呼んだか。 (2014年 全国公立入試 類似)

1. アバシー 2. モラトリアム 3. マージナルマン 4. アイデンティティ

問10 地球温暖化や資源の枯渇といった環境問題は、現代の人間活動が未来の人々に深刻な影響を及ぼすことを示している。このように、今を生きる人々が、まだ生まれていない未来の人々の生存や良好な環境を保障するために負うべき倫理的な責任を指す、環境倫理学における重要な考え方を何というか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 世代間倫理 2. 環境倫理学 3. 自然の権利 4. 世代内倫理

問11 人間は生態系の征服者ではなく、生物共同体の単なる一構成員にすぎないとし、大地や動植物を含む自然全体を道徳的配慮の対象とすべきだとする、アルド・レオポルドが提唱した環境倫理の概念を何というか。 (2022年 全国公立入試 類似)

1. 動物解放 2. 土地倫理 3. 生命中心 4. 生命畏敬

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 2 レヴィン	青年期を「マージナル・マン（境界人・周辺人）」と名付けたのはレヴィンである。彼は、青年が子どもから大人へと移行する過渡期において、二つの異なる社会集団の境界に位置することから生じる心理的な不安定さを指摘した。エリクソン（アイデンティティの提唱者）やホリングワース（心理的離乳の提唱者）など、他の心理学者との区別が求められる。
問2	答え 4 アリストテレス	アリストテレスは『ニコマコス倫理学』において、喜びや怒りなどの情念それ自体は善悪の評価対象ではなく、それらが理性的分別（思慮）に従って、適切な状況で適切な程度に発揮されること（中庸）が徳であると説いた。怒りについても、不当な事態に対して適切に怒ることは、社会の不正をただす契機ともなり得るため、温厚という徳の一部として肯定的に評価される。
問3	答え 2 三世代同居世帯	1980年代以降の日本の家族構成では、高齢化や未婚化、核家族化の進行により、単独世帯（一人暮らし）の割合が増加する一方、祖父母・親・子が共に暮らす世帯の割合や、世帯の平均人数は減少傾向にある。また、夫婦と子のみからなる世帯の割合も減少している。
問4	答え 1 レイチェル・カーソン	『沈黙の春』の著者である彼女は、生命が環境に適応するには何千年もの時間が必要であり、急激に導入された人工的合成物に生命が適合できるかどうかは不明であるとして、農薬などの化学物質の危険性を指摘した。彼女の告発は、アメリカにおけるDDTの使用禁止や、地球規模での環境保護運動の契機となった。
問5	答え 1 葛藤	複数の欲求が同時に対立し、どちらを選択すべきか決定できない心理的状态を「葛藤（コンフリクト）」と呼ぶ。レヴィンはこれを「接近」と「回避」の組み合わせによって3つの類型に分類した。
問6	答え 3 デュシャン	20世紀初頭、従来の芸術概念を根底から覆す試みが現れた。彼は、男性用便器に署名を施しただけの作品『泉』を発表し、芸術作品における手仕事の価値や視覚的な美の絶対性を否定した。このような既製品を用いた表現は、作品そのものの美しさではなく、作品が提示する概念や問いかけによって鑑賞者の心を動かす現代アートの源流となった。
問7	答え 4 ヒッピー	1960年代のカウンターカルチャーの代表的な動きとして、物質主義的な社会から離脱し、自然回帰や平和、愛を掲げて独自のライフスタイルを実践した若者たちの運動がある。彼らはヒッピーと呼ばれ、音楽やファッションなど後世の文化にも大きな影響を与えた。
問8	答え 4 対抗文化	支配的な文化や既存の体制・価値観に対抗し、それを批判・否定する形で形成される文化を対抗文化（カウンターのカルチャー）と呼ぶ。1960年代のアメリカにおけるヒッピー運動や反戦運動などがその代表例であり、若者世代を中心に既存の秩序を揺るがし、社会変革を促す役割を果たした。
問9	答え 2 モラトリアム	エリクソンは、青年期を大人としての社会的責任や義務が猶予される期間として捉え、これを「社会的モラトリアム」と呼んだ。この期間は、自己を見つめ直し、アイデンティティを確立するための重要な準備期間とされる。
問10	答え 1 世代間倫理	現代の世代が資源を浪費したり環境を破壊したりすることは、将来生まれてくる世代の生存基盤を奪うことにつながる。このため、現在の世代は未来の世代に対して、生存可能な環境を維持し引き継ぐという倫理的責務を負っているとされる。この考え方は持続可能な開発（発展）の思想的基礎ともなっている。
問11	答え 2 土地倫理	アルド・レオポルドは、従来の人間中心主義的な倫理の範囲を、人間関係から社会、そして土地（自然環境全体）へと拡張することを主張した。この思想は、人間が生態系という共同体の一員として、他の構成員やシステム全体を尊重し、調和して生きるべきだという現代の環境倫理の基礎となった。